

自己評価報告書(最終報告)

報告者

学校臨床実践コース
／佐藤 亨

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教職大学院の教員として、主に現職教員の大学院での教育に携わってきたが、実習指導においては学校現場との連携を密にして、学校現場で直接役立つ力量の向上を図ることを意識してきた。また、授業においても具体的な事例を中心とした授業を行って、実践的な力量の向上を図ると同時に、外部機関との連携の授業では実際に外部機関を訪問することで、様々な機関の実情を知ると同時に、それぞれの機関と連携を深める際の留意点を、実情に即して理解させることに留意してきた。

本年度も基本的には、これまでと同様な取り組みを続けることを中心とするが、特に実習指導において、できるだけ院生が関与している会議や授業実践の場に関わることで、より一層の実践力の向上を図りたい。

2. 点検・評価

目標に挙げたとおりに、大学での授業においては、できるだけ事例に焦点を当てた授業を行って、実践力の向上を図った。また、外部機関との連携の授業においては、これまで同様に実際に外部機関を訪問し、職員の話聞くことによって、外部機関とつながる力の向上に努めた。さらに、実習指導の際に、積極的に院生の授業実践や院生が関わっている事例検討会に参加して、実践力の向上に努めるなど、概ね目標を達成することができた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○これまで同様に、教職大学院の授業の中で、学校現場での事例を積極的に扱うことで教師としての実践力の向上を図る。また、実習指導においては、実際に院生が関わる会議や授業の場に教員も参加することによって、その後の指導に役立て、力量の一層の向上を図る。

○臨床心理士養成コースの心理査定演習を担当していることから、提出された心理査定の結果について個々にフィードバックを行い、心理査定の力量の向上を図る。

○臨床心理士養成コースの大学院生に対して、公務員試験対策講座を開講する。

2. 点検・評価

○目標に挙げたとおりに、教職大学院の授業の中で事例を積極的に扱い、実践力の向上を図った。また、実習指導においては、授業実践や事例検討会に積極的に参加し、院生の力量の向上を図った。
○臨床心理士養成コースの院生に対しては、査定演習Ⅱの結果を積極的にフィードバックして、自己理解を促すと同時に、力量向上を図った。
○教職大学院での業務が忙しくなってしまったこともあり、継続的な公務員試験対策講座を開講することはできなかった。ただし、心理職公務員の試験制度の説明と模擬試験を実施することはできた。また、2012年度から心理職国家公務員の試験制度が変わることから、それに関する情報収集を行い、希望する院生に対しての説明会を実施した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

ここ数年は大学院生への教育活動に時間を取られ、自らの研究活動に十分に時間を取ることのできない状況が続いている。そのため、昨年度も研究に力を注ぐ旨の目標を立てたが、実際にはなかなか時間を研究に割くことができなかった。このような状況は今後も続くと思われるため、研究に関しては複数の目標を立てることをやめ、平成23年度はともかく、女子非行についてまとめ、紀要等に投稿することを最低限の目標として、何としても達成させることとする。

2. 点検・評価

残念ながら、目標に挙げていた女子非行に関する紀要への投稿は実現できなかった。研究に関しては、ここ数年同様な状況が続いているため、研究に関しては仕切り直した上で、積極的に行っていくことが必要であり、今後の課題である。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

本年度から学校臨床実践コースのコース長となったことから、コースの他の教員と連携を密にしながら、コースの教育活動が円滑に進むようにコース運営を行っていく。

2. 点検・評価

学校臨床実践コースのコース長として、週1回のコース会議、月1回の院生との連絡会などを行い、コース教員間及び教員と院生との連携を密にして、円滑なコース運営を行うことができた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

○これまでと同様に, 以下の活動に取り組むことで, 非行少年や犯罪者の再犯防止に努力する。

- ①児童自立支援施設(徳島学院)で, ボランティアスタッフとして関わる。
- ②徳島刑務所において, 篤志面接委員として, 受刑者のグループワークを行う。
- ③神戸保護観察所での, 性犯罪者処遇プログラムにアドバイザーとして参加する。

○徳島県社会人権教育指導員等として, 「刑を終えて出所した人たち」や, 「非行少年の抱える問題」について講演活動を行い, 一般の方や学校関係者などの理解を深めてもらうことで, 非行少年などの再犯(再非行)の防止に努力する。

2. 点検・評価

目標に挙げたとおり, ①児童自立支援施設におけるボランティアスタッフ, ②徳島刑務所における篤志面接委員, ③神戸保護観察所におけるアドバイザー, として非行少年や犯罪者の処遇に寄与した。また, 人権教育指導員として学校現場等からの依頼に基づいて講演を行い, 非行少年や犯罪者の理解を深めてもらうことに努めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)